

令和 3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		塵芥収集事業		担当課	生活環境課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間	昭和57年度～
	施策	循環型社会の形成		種別	法定事務
	基本事業	廃棄物の適正処理		市民協働	事業協力
予算科目コード		01-040201-09 単独	根拠法令・条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 守谷市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
人口の増加に伴い、家庭から排出されるごみの量が年々増加したため、昭和57年からごみの収集運搬を民間委託により実施している。	「守谷市一般廃棄物処理実施計画」に基づき、集積所に排出された家庭系一般廃棄物等の収集運搬を行う。また、粗大ごみについては、電話やインターネットで月2回の戸別収集に係る申請受付を行うとともに、常総環境センターへの直接搬入に係る申請受付と許可書の発行を行う。 ・ごみ収集日程表（クリーンカレンダー）、家庭ごみ分別の手引き等の作成・配布 ・家庭系一般廃棄物等の収集運搬業務委託 ・粗大ごみ収集運搬券取扱店舗への販売業務委託
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
一般廃棄物の適正かつ安定的な収集運搬を行うとともに、ごみ集積所の適正管理等による生活環境の保全と公衆衛生の向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
ごみの分別を徹底し、ごみの減量化と再利用可能な廃棄物の資源としての有効利用を促進する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
平成24年度から5種16分別による収集体制となり、収集回数が増加した。また、人口増に伴う収集所の増設に比例し、収集に係る委託料も増加している。 （参考） 集積所数（令和3年度実績） ・一般集積所 1,581箇所（令和2年度 1,565箇所） ・公共施設等 56箇所（令和2年度 55箇所）	3月末 業務委託契約締結 4月～3月 事業者による収集運搬実施 随時 集積所新設・変更・廃止に係る指導・助言等
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
人口の増加が続く間は、ごみ集積所設置箇所も増加するため、収集運搬委託料の増額が見込まれる。適切な集積所数による効率的な収集運搬が行えるよう、集積所の新設・変更・廃止に係る的確な指導・助言等に取り組んでいく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■ 増加 □ 維持 □ 削減	ごみ集積所数は上昇傾向にあり、収集運搬委に係る燃料費等の費用も高騰していることから、事業に係るコストは増加とする。

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度を取組（評価、課題への対応）
1人1日当たりの家庭系ごみ排出量は、人口増加の影響を受けて年々増加傾向にあり、令和2年度では、新型コロナウイルス感染症拡大による生活様式の変更に伴い、在宅勤務者の増加を主要因として、令和元年度比で5.2%増加している。 この削減を削減を図るためには、市民のごみ減量化と資源化率向上に対する意識向上を図る必要がある。	市内を3つのエリアに分割し、3事業者と契約を締結して一般廃棄物の収集運搬を実施した。また、集積所設置の際、分別や排出日のルール順守等による適切な収集が行えるよう、設置者（管理者）に助言や指導を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
ごみ集積所数（箇所）	1, 418. 00	1, 535. 00	1, 565. 00	1, 589. 00	1, 620. 00	1, 637. 00	1, 645. 00
家庭系年間ごみ収集量（行政回収分のみ・資源含）（トン）	14, 663. 00	14, 284. 00	14, 652. 00	15, 150. 00	15, 933. 00	15, 588. 00	15, 583. 00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	令和3年度の家庭系ごみ収集量は、令和元年度と比較して減少している。これは、令和2年度に新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出自粛の要請に伴い家庭系ごみが増加したが、その後は外出自粛が解除されたことにより減少したものである。 しかし、家庭系ごみは、新型コロナウイルス感染症流行以前と比較し増加しており、目標値も達成できていないことから、成果は低下している。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	ごみの収集は、市民が生活を営む上で必要不可欠であるため、今後も継続して実施していく。					

コストの推移						
項目		R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込
事業費	計	235,067	241,862	246,172	257,421	270,499
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	10,365	9,943	10,381	10,260	10,260
	一般財源	224,702	231,919	235,791	247,161	260,239
正職員人工数（時間数）		2,822.00	1,922.00	2,203.00	0.00	0.00
正職員人件費		11,579	7,780	8,523	0	0
トータルコスト		246,646	249,642	254,695	257,421	270,499